

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

知的障害者の医療機関受診において必要な合理的配慮についての啓発資料作成に関する研究

研究代表者	八巻知香子	国立がん研究センター	がん対策研究所	室長
研究分担者	打浪文子	立正大学	社会福祉学部	准教授
研究分担者	飛松好子	国立障害者リハビリテーションセンター		顧問
研究協力者	今橋久美子	国立障害者リハビリテーションセンター研究所		室長
研究協力者	清野絵	国立障害者リハビリテーションセンター研究所		室長
研究協力者	岡村理	滋賀県立総合病院	がん相談支援センター	相談員
研究協力者	山内閑子	のこのこデザイン		
研究協力者	長谷川薫	のこのこデザイン		
研究協力者	志賀久美子	国立がん研究センター	がん対策研究所	看護師
研究協力者	羽山慎亮	国立がん研究センター	がん対策研究所	特任研究員

研究要旨

本研究班では「医療従事者のためのサポートガイド」として、医療者に対する知的障害の理解啓発のためのリーフレット「知的・発達障害のある方が病院に来院されたら」を作成した。作成の過程では、知的障害の個別性・多様性をどのように伝え、どのような工夫や配慮を説明するかということが大きなポイントとなった。複数回の議論を通して整理されていた結果、知的障害者への対応として最低限知っておいてほしいことを伝えるという目的は達成されたと考える。

一方で、「知的障害」と「発達障害」それぞれの概説を記載することは、紙幅の都合上、本リーフレットではできなかった。これについては、リーフレットに限らず、すべての医療者が研修等で学ぶ機会をもつことが望まれる。障害者に対する合理的配慮についての医療者向けの研修は本研究班でも取り組んだところであるが、今後も継続的に理解啓発ができるよう、実践や提言をおこなっていくことを今後の課題とする。

A. 研究目的

知的障害者が医療機関を受診するにあたって、本人や家族・支援者が気後れを感じる事が観察されている。その要因として、受診環境が知的障害者にとって受け入れるのが難しいものであったり、医療者等から否定的・拒否的な態度を取られたりすることが指摘されている。知的障害者が安心して受診できる環境づくりに積極的に取り組んでいる病院や、親・支援者らと話し合っただけで対応を工夫している事例もあるが、適切に対応できていないところも多いとみられる。

一方で、特に知的障害の特性は多様であるため、何をすればいいのかわからず戸惑う（その結果、不適切な対応となってしまう）医療者も多いことが推

測される。そのため、知的障害者への対応として最低限知っておいてほしいことを伝える媒体をつくる必要がある。

本研究班では「医療従事者のためのサポートガイド」として、令和3年度に「ろう・難聴者（聴覚障害者）の方が病院に来院されたら」、令和4年度に「視覚に障害のある方が病院に来院されたら」（先行研究班で作成したリーフレットの改訂版）を作成した。

そこで、本研究ではそれらのリーフレットのフォーマットを活用しながら、医療者に対する知的障害の理解啓発のためのリーフレット「知的・発達障害のある方が病院に来院されたら」を作成することを目的とした。

## B. 研究方法

リーフレットを以下の手順で作成した。

- ①打浪と羽山が中心となって草案を作成、のこのデザインがレイアウト
- ②研究分担者・研究協力者らで検討・修正（1回目）
- ③研究分担者・研究協力者らで検討・修正（2回目）
- ④校正・最終確認

上記のほか、打浪と羽山が適宜修正・調整をおこなった。実際の紙面レイアウトの修正およびイラストの作成は、のこのデザインがおこなった。

（倫理面への配慮）

本研究は資料の作成であり、個人情報などを扱うことはなく、特記すべき事項はない。

## C. 研究結果

<手順①>

先行研究や事例をふまえて、掲載する内容を検討した。その結果、知的障害の特性を示した上で、「待ち時間の不安を減らす」「患者の目を見て話す」「見通しが立つようにする」の3点とともに、コミュニケーション上のポイントとして言葉をわかりやすくする工夫やコミュニケーションボードについて紹介する内容を草案に含めた。

この草案を4ページ（A3を二つ折り）にレイアウトした。表紙には知的障害の特性の説明、中面では初めに感覚過敏の特性への対応に言及しつつ「待ち時間の不安を減らす」「患者の目を見て話す」「見通しが立つようにする」「コミュニケーションのポイント」の解説、裏表紙にはコミュニケーションボードと「わかりやすい言葉」の紹介を掲載した。また、それぞれの記述に対応するよう、院内の場面をイラスト化（下書き）した。

<手順②>

①で作成した紙面を研究分担者・研究協力者らで確認・検討した。情報のポイントが絞られていない印象、また、内容が重複している部分があるという

指摘があり、限られた紙面の中で何を伝えるのかを中心に議論をおこなった。

その結果、「環境調整」「コミュニケーションの工夫」「見通しの伝達」の3点を柱にしつつ、家族・支援者の援助について補足してまとめることになった。柱となる3点には、なぜそれが大切なのかの理由もそれぞれ冒頭で言及した。具体的には、以下のような構成となった。

### 【表紙】

知的障害の多様性を示すリード文を記載

### 【中面】

「落ち着く環境を整える」：

患者が少ない静かな時間帯を案内する・空間をパーティションで区切るなどの工夫、重めのブラケットやイヤーマフなど落ち着くためのものを持参してもらうことの提案、事前に病院に相談できる体制があると安心につながることを記載

「伝わるコミュニケーション方法の配慮」：

わかりやすい言葉で話すこと、言葉に加えて絵・写真や実物で説明するなど患者の得意なコミュニケーション方法を選択すること、コミュニケーションが取れないとしても患者の意思があることを念頭に置くことを記載

「しっかりと見通しを伝える」：

診察・検査など全体の流れや目的・所要時間などをわかりやすく説明すること、使用する医療器具・機器の実物を見たり触ったりすることが理解の促進と不安の解消につながることを記載

「家族や支援者の援助を受けることも大切」：

患者にうまく対応できなかった場合、家族や支援者が付き添っているなら援助を受けることも大切であることを記載

### 【裏表紙】

わかりやすい言葉のポイントを記載

#### <手順③>

②のとおり修正した紙面を研究分担者・研究協力者らで確認・検討した。

知的障害のある人に対してネガティブな印象を与える表現を見直し、配慮や工夫の記述についても、本リーフレットを読む医療者の意欲につながるようポジティブな表現にするなど調整の提案がなされた。また、下書きの状態であったイラストについて、必要な修正点をまとめた。

#### <手順④>

③で出された修正点を反映し、校正をおこなった上で校了とした。

#### D. 考察

本研究班で別途作成した「ろう・難聴者（聴覚障害者）の方が病院に来院されたら」「視覚に障害のある方が病院に来院されたら」においても各障害の多様さが伝えられているが、知的障害の場合はさらに個性が高い面があり、それをどのように伝え、どのような工夫や配慮を説明するかということが大きなポイントとなった。複数回の議論を通して整理されていった結果、知的障害者への対応として最低限知っておいてほしいことを伝えるという目的は達成されたと考える。

一方で、「知的障害」と「発達障害」それぞれの概説を記載することは、紙幅の都合上、本リーフレットではできなかった。これについては、リーフレットに限らず、すべての医療者が研修等で学ぶ機会をもつことが望まれる。障害者に対する合理的配慮についての医療者向けの研修は本研究班でも取り組んだところであるが、今後も継続的に理解啓発ができるよう、実践や提言をおこなっていくことを今後の課題とする。

#### E. 結論

本研究では、医療者が知的障害のある患者のことを理解し、患者が安心して受診できるよう、医療者向けのリーフレット「知的・発達障害のある方が病

院に来院されたら」を作成した。作成にあたっては本研究班で議論をおこない、知的障害者への対応として最低限知っておいてほしいことを盛り込んだ。

知的・発達障害についての理解啓発の一助となることを期待し、知的・発達障害者への合理的配慮が当たり前におこなわれるよう、引き続き実践・提言をしていきたい。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

羽山慎亮・打浪文子「医療従事者の障害理解を促進するための取り組み-パンフレット「知的障害のある方が病院に来院されたら」の作成-」第30回情報保障研究会（愛知県立大学サテライトキャンパス）、2023年3月26日。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし